

2008 Annual General Meeting

JAPAN BRANCH OF THE DICKENS FELLOWSHIP

ディケンズ・フェロウシップ日本支部
2008 年 秋季総会



4 October 2008 at Osaka Gakuin University and Junior College

2008 年 10 月 4 日 14 時～

会場 大阪学院大学・短期大学

プログラム Programme

日時：2008 年 10 月 4 日（土）14:00 より

場所：大阪学院大学・短期大学

〒 564-8511 吹田市岸部南 2-36-1



大阪学院大学
17 号館時計塔（シンボルタワー）

理事会 Board of trustees meeting (13: 20 ~ 13: 50) 2 号館 4 階 02 会議室

2008 年度総会 2008 Annual general meeting (14: 00 ~ 15: 00) 2 号館 B1-04 教室

議 題

- 1 2007 年度決算・2008 年度予算
- 2 2008 年春季大会開催校について
- 3 ディケンズ生誕 200 年記念論文集について
- 4 大会と総会の一本化について
- 5 その他

研究発表 Short paper session (15: 10 ~ 16: 20) 2 号館 B1-04 教室

司 会：山本史郎（東京大学）

- 1 大前義幸（日本大学大学院） 「作家と挿絵画家 対になる思想——*Oliver Twist* を中心に」
- 2 木島菜葉子（京都大学大学院） 「The Picturesque and Reality in *Pictures from Italy*」

講 演 Lecture session (16: 30 ~ 17: 30)

司 会：鵜飼信光（九州大学）

佐々木 徹（京都大学）

「近代的ディケンズ批評の源流を温ねて——ミラー、マーカス、リーヴィス」

懇親会 Party (17:45 ~)

会 場：大阪学院大学内

会 費：5,000 円

研究発表・講演・懇親会には会員以外の方でも自由に参加できます。

作家と挿絵画家 対になる思想

— *Oliver Twist* を中心に —

日本大学大学院 大前義幸

Oliver Twist には、クルークシャンクの挿絵が随所に盛り込まれており、それによって読者は、作品を理解するのが容易となっている。ディケンズの死後、もっとも興味を引く記事が 1871 年 12 月 30 日の *The London Times* 紙に掲載された。

When Bentley's Miscellany was first started, it was arranged that Mr. Charles Dickens should write a serial in it, and which was to be illustrated by me; and in a conversation with him as to what the subject should be for the first serial, I suggested to Mr. Dickens that he should write the life of a London boy, and strongly advised him to do this, assuring him that I would furnish him with the subject and supply him with all characters, which my large experience of London life would enable me to do. My idea was to raise a boy from a most humble position up to a high and respectable one.

これは、クルークシャンクが *The Times* 紙へ投稿したものである。この記事によれば、ディケンズの代表作 *Oliver Twist* は、作家ディケンズが考えたのではなく、挿絵画家である彼が考え、作中に描かれている挿絵に合わせてディケンズが物語を書いたのであるという。これは一見矛盾する発言であるが、よく作品を見てみると、この作品の一番の見所である、救貧院の食事の量が、成長盛りの子供にとっては余りにも少なすぎるために、くじで負けたオリヴァーが代表して院長に懇願する場面、“Please, sir, I want some more.”と、その後に描かれるオリヴァーの容姿が何か異なっているようにも思われる。それまでは、何か哀れな子どもというイメージであったが、その後のオリヴァーは、身だしなみを整え、どこか上流階級の子どもではないかと思わせるような容姿で登場する。この章では、上記の箇所がクルークシャンクの挿絵によってみごとに描き出されているが、それは、ディケンズの思想なのかクルークシャンクの思想なのか、彼らの伝記などを中心に考察していきたい。

The Picturesque and Reality in *Pictures from Italy*

京都大学大学院 木島葉菜子

ディケンズは、1846 年に出版された *Pictures from Italy* の中で、1844 年から 45 年に渡るおよそ 11 ヶ月のイタリア滞在について書いているが、この旅行記は 1842 年の *American Notes* よりもさらに評判の芳しくないものだった。現在でも本作品の読者の多くは、G.K. チェスタトンの“His travels are not travels in Italy, but travels in Dickensland.”というウィットに富んだ指摘に同感するだろう。

一方でチェスタトンの表現は、単独での評価はこれまで決して高いとはいえない本作品においても、他の優れた小説群と同様に、ディケンズの独創的な観察眼が存分に発揮されているということを示唆している。そしてディケンズ自身、この作品を非常に気に入ったと手紙に書き残している。

本発表は、本書の題名とテキストの中に作家の創作上の意図を探り、ヴァチカンで出会ったある一枚の絵画についての記述に着目することで、ディケンズが描こうとしたイタリア像を明らかにし、主張や一貫性に欠けると非難される本作品の再評価を試みるものである。

近代的ディケンズ批評の源流を温ねて^{たず}

——ミラー、マーカス、リーヴィス——

京都大学教授 佐々木 徹

ここしばらくチェスタトンやエドマンド・ウィルソンを読み直す作業をしてきました。今回の発表はその延長線上にあります。また、これは数年前に行われたディケンズ批評に関する一連のシンポジウムの番外編と考えていただいてもいいでしょう。ミラー、マーカスは既に取り上げられた批評家ですが、原、植木両先生のご発表とはだぶらないよう心がけるつもりです。リーヴィスについては、Q. D.の方がF. R.よりも断然偉いと主張します。



大阪学院大学・大阪学院短期大学

キャンパスマップ

大阪学院大学のウェブサイト URL: www.osaka-gu.ac.jp

大阪学院大学 電話 06-6381-8434 (代)

※お車でのご来学はご遠慮ください。

車を利用しなければならない特別な事情がある場合は、あらかじめご連絡ください。



京都から	京都駅	JR東海道本線 (新快速)	高槻駅	JR東海道本線 (普通)	岸辺駅	26分
	河原町駅	阪急京都線 (快速急行)	茨木市駅	阪急京都線 (普通)	正雀駅	34分
神戸から	三ノ宮駅	JR東海道本線 (新快速)	大阪駅	JR東海道本線 (普通)	岸辺駅	35分
	三ノ宮駅	阪急神戸線 (通勤特急)	十三駅	阪急京都線 (普通)	正雀駅	41分
大阪から	大阪駅	JR東海道本線 (普通)			岸辺駅	12分
	梅田駅	阪急京都線 (普通)			正雀駅	20分
奈良から	奈良駅	JR関西本線 (区間快速)	大阪駅	JR東海道本線 (普通)	岸辺駅	74分
	近鉄奈良駅	近鉄奈良線 (快速急行)	鶴橋駅	JR大阪環状線 (普通)	大阪駅	58分
全国から	関西空港駅	JR関西線	新大阪駅	JR東海道本線 (普通)	岸辺駅	78分
	大阪空港	大阪モノレール	南茨木駅	阪急京都線 (普通)	正雀駅	28分
	神戸空港駅	ポートライナー	三ノ宮駅	JR東海道本線 (新快速)	大阪駅	54分
	新幹線の場合	新大阪駅	JR東海道本線 (普通)		岸辺駅	7分

※表示時間には、乗り換え時間などは含まれていません。

○会場についての連絡先

〒564-8511 吹田市岸部南 2-36-1

大阪学院短期大学 永岡規子

○総会についての連絡先

〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1

東北大学 原 英一

<http://www.soc.nii.ac.jp/dickens/>